

43 シカによる林業被害防護手法の最適化



WebA°-ジ°

技術のポイント

九州・四国地域を対象としてニホンジカ(以下シカ)被害対策手法の特徴を明らかにし、費用対効果を考慮して最適な対策を選択するためのフロー図を作成しました。広い林地では防鹿柵がもっとも有効ですが、シカが多いと柵の維持管理が重要となります。狭い林地や防鹿柵が壊れやすい地形を含む林地では、防鹿柵以外の対策も選択肢となります。また、植栽予定地でのシカ被害レベルを予測することが重要です。予測手法については他の成果(カタログ42・シカ影響スコア)を参照下さい。

連携・橋渡しの方向

被害対策は植栽地の立地環境に適したものを選択したうえで維持管理を続ける必要があります。維持管理コストの削減も視野に入れつつ、最適な被害対策を検討、実施する際にフロー図が役立つと考えています。

詳細情報

- マニュアル： <https://www.ffpri.affrc.go.jp/pubs/chukiseika/4th-chuukiseika40.html>
- 論文等：J. For. Res., 27(特集号), 169-221 (2022)、森林総研研報, 21, 49-53 (2022)、現代林業, 682, 40-44 (2023)、山林, 1670, 25-30 (2023)、森林防疫, 72, 14-21 (2023)、福岡県農総試研報, 9, 1-7 (2023)

担当者

九州支所・野宮治人

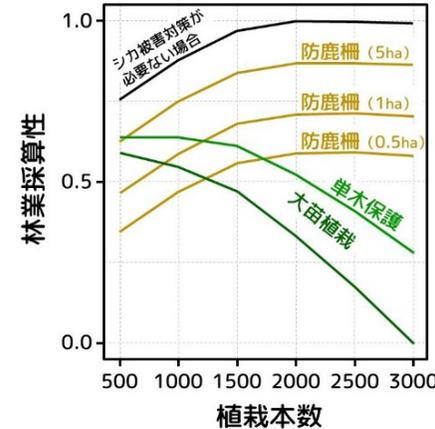


図1 植栽本数と林業採算性の関係
林業採算性は利益が最大となる条件を1、最小となる条件を0とし、収支のバランスを表しています。

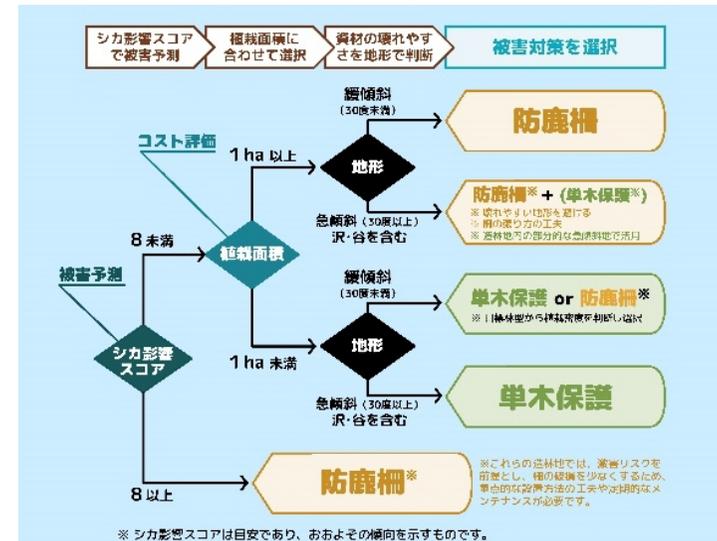


図2 シカ被害対策選択のフロー図

シカ被害対策の基本は防鹿柵とその維持管理ですが、地形に応じて他の被害対策を併用しても良いでしょう。

森林産業実用化カタログ2025



お問合せ先

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所
社会実装推進・知財戦略室

E-mail: sangaku@ffpri.affrc.go.jp

URL: <https://www.ffpri.affrc.go.jp/sangakukan/index.html>